

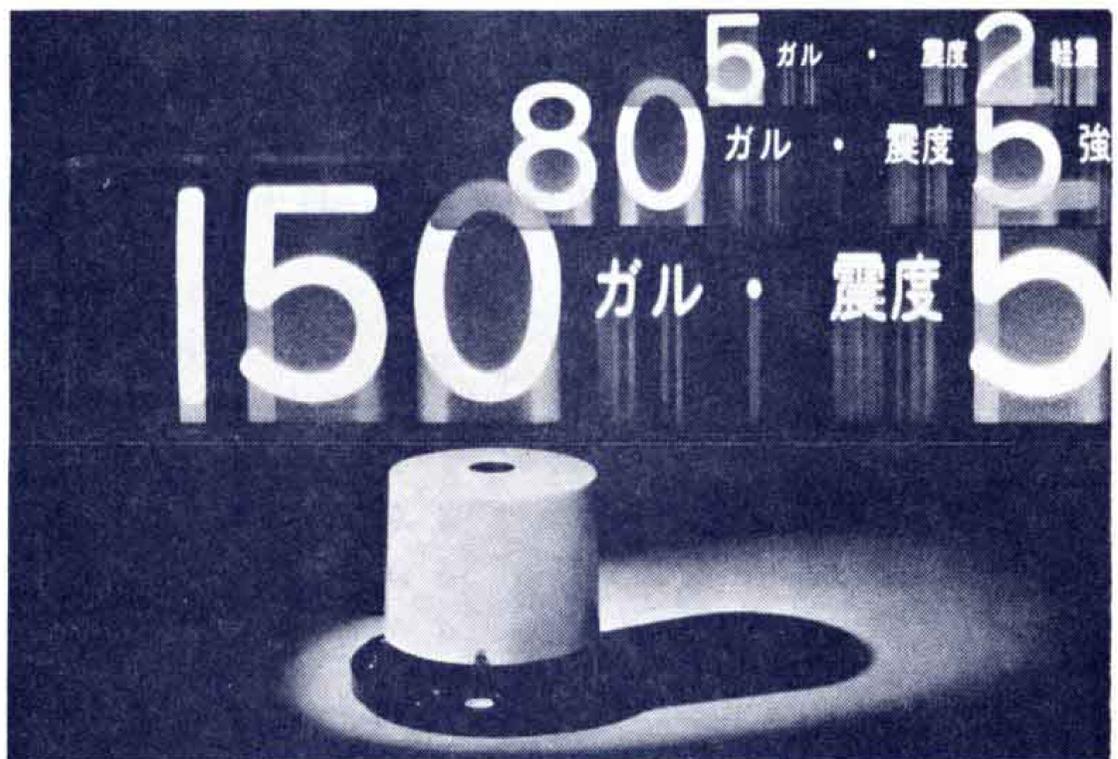
地震に備えて(1)

一市の防災準備一

「東海地震」説などを契機に地震に対する関心が高まってきております。地震はいつ起るかわからず私達にとって大変不安なものです。また一度大きな地震が起れば二次災害、三次災害を連鎖的に誘い大きな被害をもたらします。国や県ではそれぞれ地震の予知や防災体制の強化など対策をたてております。富士市でもこれと連携を保ちながら住民の生命財産を守るための応急暫定対策および地震対策についての計画をたて早急に重点的な防災体制を強化するため

- 1、情報の伝達収集体制の充実強化
- 2、給水体制の整備
- 3、消火体制の充実
- 4、市民防災意識の高揚

を柱に検討した結果、さしあたり次の諸機材を整備することになりました。



【震度計も消防本部へ】

(情報収集) 防災行政無線機(携帯用を含む)を各公民館に配備
震度計を消防本部に備付け

(給水・救護)

- ◎飲料用ろ過器
- ◎飲料用キャンバス製水槽
- ◎給水アルミタンク
- ◎避難所照明用発電機
- ◎非常食(乾パン)

の配置拠点を選定し公民館などに配備。救命ボート・救命胴衣を消防

本署、臨港、南、吉永各分署に配備
(消火) 小型可搬式動力ポンプを消防分団に配備

(広報) 地震パンフレットを各世帯
その他に配布

今後も引続き防災諸施策の充実を図り、また町内会、事業所等を単位とする「自主防災組織」と協調し、地震に備えて郷土を護り市民の福祉に役立つ強化対策をさらに検討しすすめてまいります。

雑きんを贈りつづけて10年

浦町のおとしよりグループ「浦島会」

かわいい孫たちのために……と、ひまを見ては古着を利用して雑きんをつくり、幼稚園や学校などに10年以上も贈りつづけて大変喜ばれているおとしよりだけのグループをご紹介します。

このグループは、市内浦町にある「浦島会」というグループ。浦町のおとしよりだけの会というところから、おとし話の浦島太郎にあやかって付けたのがこの会の名前で、昭和40年に会をつくって現在は89才の井上ふゆさんを最年長に会員数は男女合わせて92人。

みんなが浦島太郎のようにいつまでも元気で、長生きして少しでも世

の中の役に立とうと10年前にはじめたのがこの雑きんづくり。

各自が、家にある着古した布切れを公会堂に持ちよっては、たのしい世間話に花を咲かせながら雑きんづくりに励んでいます。

でき上がった雑きんは、年に2回岩松中学校と岩松小学校、岩松幼稚園、社会福祉センターなどに順番に寄贈していますが1回に100枚から120枚も縫い上げるので、贈られた

側は「大変たすかります」と大喜びです。

このほか、30人の男の会員と一緒に、年に5回位、近所のお寺の墓地を掃除したり、勤労奉仕や若い人達にかわって自動車税の集金なども行っており、また、旅行や盆栽、民謡など各自の趣味に合った手習いなどで若い人達にも負けないような、楽しい会を運営しています。



【楽しい語らいの中で雑きんづくりをする浦島会のおとしより】